

白バラ

梅津純子

雪ひと日降りみ降らずみ暮れゆける夜の更けに聞く遠き雷いかづち

置き場所のここに定まる老眼鏡百均の小さき竹籠の美はし

壇上にて師より賜へる花束を見るいとまなく抱き帰りぬ

包み紙解けば出づる花束に赤や黄色の華やぎの無き

花束の花それぞれをよく見むと新聞紙広げ結束を解く

含みたる木蓮三本白き薔薇シンビジウムの蘇す芳色深しはう

花びらの内のかすかに青みたる白薔薇五本香りを持たず

八種もの花材生かさむ水盤は何処にありや永く使はず

白き薔薇活けつつ想ふ命かけナチスに抗しし「白バラ」の人ら

白きバラ五本が主なる花束をわれに選りたる人を偲びぬ